

2009年改訂版「設計積算要領」 完成、2月発行！

HDD工法の普及活動の一環として、一昨年より作業を進めてまいりましたHDD（誘導式水平ドリル）工法「設計積算要領」2009年改訂版が、この2月ようやく完成いたしました。初版である2005年版を見直し、改訂をはかったものです。改訂の主なポイントは、初版の施工速度による積算体系を全て日進量に換算し、積算作業の簡便化をはかりました。また、土質分類も4種類とし、管種については新たにNS形推進工法用ダクタイル管を追加しています。

この改訂版の主な内容（抜粋）を以下に紹介いたします。

■ 適用管種と適用管径

適用管種は、ポリエチレン管、鋼管及びNS形推進工法用ダクタイル管の引き込み可能な管材とする。

適用管径は、呼び径75以下、100、150、200、250、300とする。ただし、NS形推進工法用ダクタイル管については現在製造されている呼び径100、150、200、250とする。

■ 適用土質

粘性土：N値25以下（腐植土、シルト含む）

砂質土：N値20以下 地下水圧30KN/m²以下

礫混り土：N値15以下 地下水圧30KN/m²以下

N値により、粘性土はA・B・C・Dの4種類に、砂質土はB・C・Dの3種類にそれぞれランク分けされる。礫混り土はDランクとする。ただし、地下水圧が30KN/m²以下でも坑口部の崩壊性の高い場合には検討を要する。

■ 日進量

・昼間8時間作業のポリエチレン管日進量の（例）

（単位：m/日）

呼び径 (mm)	A土質				B土質				C土質		D土質	
	標準		プレ1回(注)		標準		プレ1回(注)		標準		標準	
	プレ	日進量	プレ	日進量	プレ	日進量	プレ	日進量	プレ	日進量	プレ	日進量
~75	0	54.5	1	40.0	0	45.5	1	33.3	1	26.7	1	20.0
100	0	50.0	1	35.7	0	41.7	1	29.8	1	23.8	1	17.9
150	0	42.9	1	29.4	1	24.5	—	—	1	19.6	1	14.7
200	1	23.3	—	—	1	19.4	—	—	2	12.4	2	9.3
250	2	15.2	—	—	2	12.7	—	—	2	10.2	*	*
300	3	9.9	—	—	3	8.3	—	—	*	*	*	*

備考 表中の*の採用にあたっては、検討を要する。

（注）上記の日進量を超える施工延長や特殊条件下で採用する場合のプレリーミング1回以上の日進量は、表中プレ1回（注）の日進量とする。

・線形（平面曲線、縦断曲線、複合曲線）や現場状況（地中構造物横断、道路横断、軌道横断、河川横断）による特殊条件下では、プレリーミングを1回以上行う日進量に該当する部分延長に補正係数（例えば道路横断 = 0.7）を乗じ平均日進量とする。